

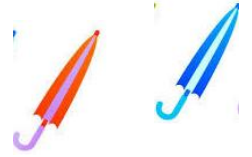
フrendシッp通信 50期 40号



発行日：2017. 6. 30.
発行者：総務 松本



Part 1



うっとうしい梅雨の時期・・・色鮮やかに咲くあじさいに、しばし足をとめて 見入ってしまう事が度々あります！！ 憂鬱だった気持ちも何だか 少しでも晴れやかになるような気がします ♡ あじさいは土壌のPh（水素イオン濃度指数）によって咲く花の色が違いますが 今は、品種改良によって、本当に沢山の種類の 色や形があります 私が特に好きなものは、“アナベルという白いあじさい”と“墨田の花火”という種類の紫陽花ですそして、最近になって知ったんですが、あじさいのおまじないがあるのだとか。。。6月の6のつく日にあじさいを逆さまに吊るしておくとい厄除けになると言われています 玄関に吊るせば、厄除けになりお金が貯まる ♪ 部屋に吊るせばお金に困らない トイレに吊るすと病氣（婦人病）にかからない・・・などいろいろな説があります 理由は、昔から 商売繁盛を願って蜂の巣を吊るす風習があり、あじさいが蜂の巣に似ている事から金運の花とされている事 病氣除けは、寝（根）付かず 健康に通じるからだとされています ✨✨ なんかせいご利益ですよ～ ♡ 今年は、くしくも6のつく日を逃してしまったので、来年こそは・・・絶対にトライしようと 意気込んでいます私です 🍷



ススケンは6月1日より 創立50周年を迎えます！！ それに因み今月号は、題して“ススケンヒストリー”です

「おお～し 俺はやるぞぉ～！ ついて来いよ」「うん！」 昭和42年 12月・・・完成したばかりの工場内は ガランとして 張ったばかりのコンクリートの冷たさは、今でもはっきり思いだす。 夫 29才 妻 22才 微かな不安を払いのけるように、お互いを見つめ合い 火種はついた。 実はこの時3人だったとは知るよしもなかった。 現社長の年齢は、こうして 創業年数と共に毎年積み重なっていく事になる

外に出れば 月は光輝と冴え、肌を刺す師走のからっ風が 背中を押すかのように びゅーっと吹き抜けた 後には引けない・・・覚悟の経営の始まりだ 大雑把な計画の下に、彼 独特の哲学は “イチかバチかまずやってみる” 走ってはぶちあたり、転んで傷つき・・・流れる血と汗は カバンに詰めて、その都度 太田川にほうりこんだ

そして、近い未来に夢と希望を掲げ 楽しい事・うれしい事を鼻先にぶらさげて 一つの事をひたすら懸命にやり続けた

思えば・・・自分の意思もなくこの世に生まれ、気づけば この親 この環境・・・全てが大いなるものの計らいのままに与えられたのだ！ 偶然を装い起きた事も、成長し 進化する為の大愛であり 必然だった

“生きるとは” 天の意思をくみ取り、個性という花を咲かせきる事にある 様々な経験は、因果の法則を検証するに至り 「何故？ どうしてなの？」 問いかけてきた謎は、薄紙を剥くように やがて解け、その正確さに愕然とし戦慄が走る。。。 そして、なるほど。。。そうだったのかと頷き、納得する事が出来た。 天は、花を咲かせようと思う者には力を与えるが・・・試練も与える ♪ それに耐えた分だけ土の中で根を張る 苦勞は、人を鍛え・磨き上げ そして・・・本物にしてくれるのだと思う

半世紀に渡る節目を迎えられた事は、多くの人々の有難い出会いと、只事でないご縁・・・更に神仏のご加護の賜物だと 深い感謝の念が 込み上げてくる

この大きな節目の記念日を原点とし、新たなスタートを切り 宙に浮いた足をしっかり地につけ、姿勢を正し・・・驕らず、高ぶらず、堂々と いそいそと 仕事に勤しんで行こう バトンは、二代目社長 鈴木 博久 が ガッチリと受け取ってくれた ！



彼方から 聞こえる姿なき声



「さあ～博久 走れ！！ 頼んだぞ どんな時も俺は、絶対に目を離さない 見守り続けているから安心して自分流に 思いっきりやれ 大丈夫だ！」

最後に・・・50年間 共に手を携え 一緒に歩いてきた ♪ そして 心からの栄光を捧げたい

創業者 鈴木 幸郎に、海よりも深い感謝と 山よりも高い尊敬を 🙌

願わくば 三代目 鈴木 創士に向かって バトンは走る・・・



継続は力なり



初代相棒 鈴木 裕子



創業から五年目位の時の 従業員の方々

